

# 誤診し続け1年半

西垂水 和隆 (今村病院分院救急・総合内科主任部長)

**誤**診したケースはだいたい家に帰るときに思い出す。診療が終わって退室していただきたい翌日かその日の夜に再診していて、やっぱりなーと思う。この虫の知らせを感じながらも、また帰してしまうという愚かな行為を繰り返している。しかし、本例は何の疑いも持たず1年半も外来で誤診したまま、誤った治療を、しかも結構上手に行ったのである。

患者は80歳代の男性で、微熱と両側大腿部痛が主訴であった。血沈130mm/h以上。各種培養陰性でCTでも特に異常なし。当初、リウマチ性多発筋痛症としてプレドニゾン15mg/日で治療を開始し、かなり効果が見られたが再燃したため、ステロイドを中止して入院。Gaシンチで股関節近傍に取り込みあり。しかし、MRIや整形コンサルトするも特に異常なし。心雑音があったため経食道エコーまで行ったが異常なく、側頭動脈生検では血管炎が否定できないとのことであった。各種検査で悪性疾患も否定的であり、側頭動脈炎としてプレドニゾン50mg/日を開始、速やかに解熱して痛みも消失した。

その後、私が外来で1年半担当した。ステロイドを減量していくと、いつも10mg/日くらいで発熱と大腿部痛が再出現するため、再度増量してはゆっくり減らしたり、隔日投与にしたり、間欠的に点滴で治療したりした。さらに、糖尿病の治療も高齢ながらインスリンを使って結構苦労しながら行い、入院することもなく経過した。

私とその病院を離れるときも家族一同非常に残念がってくれた。

ところが、私から引き継いだ先生が、あまりの心雑音にびっくりして心エコーを再検。何と右室の粘液腫がみつかった。しかも、1年半前の経食道エコーにも写っていたとのこと。無事に手術も終わったことを後に電話で知らされ、何とも申し訳なく、恥ずかしかった。ステロイド減量で再燃を繰り返しては私に誤診を教えてくれていたにもかかわらず、アホな治療を続けてしまい(しかも自分なりに工夫して、うまくいったつもり)、医者が変わった瞬間に診断がつくという情けなさ。よく塞栓症などを起こさずに来てくれたと感謝したい。

粘液腫で同様にステロイドにより症状がマスクされるという症例報告はみかけるが、こんなに長期間気づかなかったのは私くらいであろう。私が退職して、ほかの医師に診てもらったからこそ気づいたケースであり、退職していなかったら、さらに何年も続けていたかもしれない。そう考えると、いま外来で診ているあの人たちも……? 心配になってきた。

(No.4772, 2015.10.10)

